



『飲食の戦士たち』は、飲食業界をリードする企業の社長の生い立ちから生き様、独立までの軌跡を紹介するシリーズです。思い出の写真と共に、企業理念とそれを掲げるに至った経緯、今後のビジョン、人材観などを紹介しています。飲食業界を志す方、もっと上のレベルで働きたい方、そしてこれから独立を志す方、必見です!

大丈夫」という自信を得て、この会社を後にする。

■東京で「規模の大きなビジネス」を経験し、いよいよ独立へ。
次に目指したのは「規模の大きなビジネス」を経験すること。そこで選んだのが東京の不動産会社だ。投資家を対象に数億円規模の不動産を販売するという仕事だったが、通信系の厳しい環境下で確かな営業力を身につけた西川には難しいものではなかった。「かなり売った」という本人の言葉どおり、僅差でNo.2に甘んじたものの成績は常に社内トップクラス。ここでもさらに営業力に自信を深める結果となった。そしてまた1年が過ぎる頃、西川はついに「独立」へと踏み出す。そのパートナーに選んだのが、この会社で営業成績No.1の男。二つ年下ではあるが、入社はほぼ同時。常にトップを争う間柄で、お互いにその力を認め合っていた。何の前振りもなく唐突に切り出した「独立」の提案を、相手も即座に快諾。こうして西川は2008年11月、25歳にして「株式会社センチュリオン」を立ち上げたのだ。

株式会社センチュリオン 代表取締役 西川将史氏

通信業界で徹底的に営業力を磨き、不動産業界で数億円規模のビジネスを手がけ、その道で独立を果たした若き経営者がいま、飲食店経営の面白さにハマる。



生年月日 1989年11月16日、京都市北区に生まれる。
プロフィール
呉服店を営む父とそれを手伝う母の間に、次男として誕生。両親は喧嘩が絶えず、家庭内は常にぎくしゃく。そんな父母の機嫌を伺いながら、さらに長身でスポーツ万能の兄に隠れ、極力目立たないように幼少期を過ごす。しかし高校時代に自ら性格転換を図り、それからは一転、明るく積極的に。早くから「独立」という夢をいだき、着実にそのプロセスを歩む。25歳で「株式会社センチュリオン」を設立。「衣食住」全般にわたる事業展開を目指し、奮闘中。



■不仲な両親、できる兄のもとで存在を消していた幼少期。

幼い頃の家は両親が不仲で母の里帰りや離婚の話も日常茶飯事。そんな中、西川はできるだけ喧嘩の種にならないよう父母の機嫌を伺い、自分を出さないように生活していたという。それが11歳のとき、ある講演会に参加した両親が突然の仲直り。二人の兄弟を前に土下座までして「今後はもう一切、喧嘩はしない」と誓った。その言葉どおり以後はピタリと諍いが止み、家庭は温かい雰囲気につつまれ、家族の絆が深まった。

しかし今度は一つ年上の兄が西川の前に立ち上がった。長身でスポーツ万能だった兄は、陸上・ハードルの選手として優秀な成績を残し、中学ではファンができるほどの人気者。それに比べ自身は背も低く、泳げるようになりたいからという理由で入った水泳部でもほぼ最下位の成績。西川は、兄が自分の弟と知られたくないだろうと思い、自分の存在を消すようにしていた。

■高校では自ら性格を転換し、大学では自分の中のリーダー適性に気づく。

高校は兄と同じ男子校に進学した。そこでも兄は女子校にファンができるような人気ぶり。西川は相変わらず内気で目立たず、ともすればいじめの対象になりかねないような存在だった。しかしある日、「このままでは面白くない。自分の性格を変えよう」と決意。とにかく明るく振る舞い、積極的に行動することを徹底した。ちょうどその頃、身長も急激に伸び始め、入学時の162センチから2年生では兄に並ぶ180センチ以上に。それが自信にもつながり、「明るく積極的な性格」が完全に自分のものとなっていった。

性格が変わると仲間も増えた。兄に対するコンプレックスもすっかり消え去り、学校生活が俄然楽しくなった。積極的な行動の中で新聞

配達や飲食店でのバイトも経験。おぼろげながら「将来は何かの仕事で独立したい」という夢をいだくようになる。

龍谷大学に進んでからは「とにかくよく遊んだ」という。しかもただ遊ぶだけでなく、何をして遊ぶかを企画するのが好きだった。例えば仲間と山にこもる計画を立てて実行したり、自分が中心となって映画を撮影したり…。特に映画研究会などに入っていたわけではないが、20人も仲間を集めサスペンス映画を企画・製作。こうした活動を通して西川は、自分が中心となって人を動かすことの面白さに気づき、自分の中にリーダーとしての適性を見いだす。そしてますます「独立」という思いを強くしていったのだ。

■独立に必要な営業力を磨くため、敢えて厳しい環境に身を置く。

就職活動の時期を迎えた西川は「どんな事業で独立するにしろ、まず必要なのは高い営業力だ」と考えた。そこで敢えて営業のキツさで知られる通信系の企業に就職。入社時の新人合宿から評判通りの厳しさを体験することになる。最終日に行われたのは120人の新入社員を6人ずつの班に分け、班全員の完走を前提に順位を競う40キロのマラソン。1班の班長だった西川は「絶対に1位を取る」という決意のもと、この競技に挑んだ。班の中にはもちろん女子もいる。体力のない者もいる。しかし西川はここで抜群のリーダーシップを発揮。常にメンバーを励まし、時には声を荒げて叱咤し、自分を含む力のある男子が女子をおぶりながら、見事に1位で全員を完走させたのだ。

実務に就いてからも「独立のために営業力を身につける」という明確な目標を持つ西川は、厳しい環境にくじけることなどなかった。すべてが新規開拓、1日に600-700件もの電話をかけるという過酷な営業でも順調に成績を上げていった。そして1年が経つ頃、「努力すれば必ず結果を出せる」ということを学び、「これでどんな営業をしても

■多角経営を目指す中で、飲食事業に進出。その面白さに魅せられる。

前職の不動産会社は西川の入社時に30人程だった社員が、退職時には100人にまで増えていた。そんな成長期を牽引したNo.1とNo.2が興した会社が失敗するはずはない。設立時から不動産の売買という事業で好業績を記録していった。しかし西川は「不動産業」に専念するつもりはなく、「将来は多角化」というビジョンを抱いていた。その第一弾として着手したのが「飲食業」である。2010年9月に「勉強のため」とあるフランチャイズチェーンの店舗を出店。そこで感じたのが「商売の面白さ」だ。顧客と直接ふれあう。「おいしかった」という笑顔に出会う。これは西川にとって、今までのビジネスでは経験できなかった感動であり、喜びだった。そこで間を置かず、FCではない新たな店舗を出店。2店舗目は「京風もつなべ」、3店舗目は「京風うどん」。いずれも西川が自らの出身地にこだわりながら生み出したオリジナルの業態である。

■まずは50店舗を目指し、第二の事業の柱にしていく計画。

西川は飲食業をセンチュリオンの「第二の事業の柱」にしたいと考えている。そのための第一目標に「まずは50店舗」を掲げ、「試験的な意味も含めて、50店舗くらいまでは様々な業態の店舗を展開したい。その中で光るブランドを見つけ勝負をかけたい」と今後の展望を語る。その為にはもちろん多くの従業員の協力が必要だ。西川は「会社の為ではなく、自分たちの未来の為、そして日本の未来の為に戦う同志にメンバーになってほしい」と語る。

■日本人として日本に貢献し世界へ。

自分が生まれきた意味は何なのかと起業以前から絶えず自問自答し、数年かけてようやく出てきた答えが「中華人民共和国と日本の同盟」。飲食業を中華人民共和国で展開し、日本文化を浸透させる。政治家ではなく事業家という立場から、中華人民共和国と友好な関係を築けるように訴えたいと考えている。龍馬が薩長同盟を成したように、中華人民共和国と日本の同盟をはかり、そこから生まれるパワーを世界にむけて使いたい。その為にもビジネスは必ず成功させなければいけないと西川は語る。自らの経験を教訓に、「幸せ創造集団を目指す」という企業理念を掲げる西川が、今後どんな経営手腕を発揮していくのか、ぜひ注目していきたい。

美食家 日本健在

世界でも有数のグルメ王国ニッポン。飲食業界には、独立成功のチャンスが無限に広がっています!

上の記事の西川社長も20代で他業種から独立。フードビジネスで独立・起業を狙え!

■ズバリ、オーストラリアにいるあなたを青田買いします。その他業種経験は必ず活きます!

ワーホリが終わった後は、世界を見たい、自分で起業したい、独立して日本とオーストラリアの架け橋になりたい... そんなこと考えたことありませんか?
今、日本では20代、30代に独立・起業への一番の近道はフードビジネスである、と言っても過言ではありません。特に他業種での経験を積んだ方は飲食業では非常に優位性があるのです。私たち「キーストン」は飲食業界に特化した人材採用のリーディングカンパニー。これまでに多くの飲食企業と、飲食業を志す方のマッチングを行ってきました。現在も、常時300社以上の就職紹介を行っています。今回、オーストラリアにいるあなたに、フードビジネスがいかに魅力的であるかをお伝えいたします。

■飲食業界は急速にグローバル化が進んでいます。

数多くの飲食企業がアジアを中心に海外進出中であり、または模索中です。あなたのオーストラリアで経験した味覚の違い、サービスの違い、嗜好の違いを是非日本の飲食業界に伝えてください。

■こんな方は、フードビジネスで成功できるチャンスです。

多国籍の友人を作り、様々な文化や価値観、人種とのコミュニケーションを学んだ方。多民族文化の生活の中で、日本の素晴らしさをあらためて感じている方。いつか世界と日本の架け橋になるようなビジネスをしたいと考えている方。

■コンサルタント紹介(問い合わせ先)

塩原修:日本で人材コンサルタント業、オーストラリアでメディアおよび飲食事業に従事。現在はカナダに拠点を置き、日本の飲食業およびオーストラリアの企業と様々な取り組みを行っている。ワーキングホリデーの就職事情に詳しく、帰国前からあなたの独立・起業の相談、および就職相談に乗り、日本への架け橋となります。Email:glocal.style@gmail.com

就職紹介企業【設立】1992年10月22日【資本金】9000万円

KEYSTONE 株式会社キーストン
http://www.keys.ne.jp/

運営サイト いんしよくハイパー

in-shoku 情報 http://in-shoku.info/

運営サイト いんしよく人材紹介

飲食人材紹介 http://inshoku.info/

応援企業 チアーズ

CHEERS